

豊かな大学生活への第一歩

Q&A

Vol.1 (ver1.2)

2017年4月

何気ない日本人の習慣・考え方を学ぼう！

【はじめに】

留学生にとって、日本人の習慣・考え方は疑問に感じられることが多いと思います。また、日本語が上達して日本のカルチャーに慣れるに従って、その悩みはさらに深くなると聞きます。

そこで今回、東京大学文学部日本語教室と東京大学フューチャーファカルティプログラム（東大FFP）¹が協力して、留学生の皆さんの悩みを少しでも解決すべく、「何気ない日本人の習慣・考え方を学ぼう」という集中講座が行われました。講座では、参加者が5つのグループに分かれて、各テーマについて、留学生の悩みをQ（Question）として、それに対する答えA（Answer）を参加した東大FFP修了生と共に考えてもらいました。本資料はその成果をまとめたものです。

本資料には、講座でディスカッションされた各テーマ（1～5）に関する、Q&Aが列挙されています。答えを複数提示しているものもあるように、あくまでこれらは回答の一例であり、すべての人にその回答があてはまるわけではありません。日本人の習慣や考えは大きくひとくくりにはできず、一人ひとりその個性に応じてふるまい方が異なるからです。読者の皆様方の状況に照らし合わせつつ、ご自身で回答を模索する手助けとして、本資料をご活用いただければ幸いです。

【作成に関わった人たち】

・ 教員

栗田 佳代子（大学総合教育研究センター）／向井 留実子（人文社会系研究科）

・ 東大FFP修了生

川井田 俊（農学生命科学研究科）／木崎 速人（薬学系研究科）／呉 修喆（総合文化研究科）／

澤田 宇多子（医学系研究科）／田野尻 哲郎（総合文化研究科）／

長濱 和代（新領域創成科学研究科）／朴 慧原（総合文化研究科）／

松原 悠（大学総合教育研究センター）／柳原 未奈（工学系研究科）／

盧 永建（新領域創成科学研究科）／渡部 直也（総合文化研究科）

¹ 東京大学フューチャーファカルティプログラムは大学教員を目指す東京大学の大学院生、ポストドクター、若手教職員を対象として、教育能力の向上を目的としたプログラムです。

<http://www.utokyofd.com/ffp/>

1. 日本人との会話・話題に関する悩み

円滑なコミュニケーションのためには、わからないことがあれば、その場で聞いてみましょう。日本人も、留学生が理解しているか、心配に思っている場合が多いと思われます。

Q1

知らないことばが使われると会話についていけなくなります。

A1

こっそり隣の人またはチューターの人に聞いてみると良いかもしれません。また、その場では全体的な文脈を見て、意味を推測し、あとで改めて聞いてみても良いかもしれません。

Q2

芸能人や高校の思い出のような話題に追いつけません。会話に参加できません。

A2

これも A1 と同様の回答です。ただ、日本語を勉強する良いチャンスですので、その話をきっかけに日本のドラマやバラエティ番組などを視聴してみたいか？話題になっている芸能人がどんな人なのか、出演している番組がどんな番組なのか、といったことをきっかけに会話を展開できるのではないのでしょうか。

Q3

飲み会で日本人同士がすごく盛り上がっている場合、留学生はどうやって話に加わったらいいのでしょうか。また、飲み会で分からない話題で盛り上がっているとき、どうしたらいいのでしょうか。

A3

素直に話を聞くだけでも良いと思います。積極的に相槌を打ったりすると話を回してくれるかもしれません。ただ、あまり無理せずに、自分のわかる範囲で話題に加われば良いと思います。盛り上がりの大きさなどはあまり気にせず、近くにいる人と交流すると良いでしょう。

Q4 :

自分から話題を作らないと！と感じる時、どんな話題を選ぶのがふさわしいかわかりません。

A4

日本の文化について聞いてみたいかでしょうか。また、自分の失敗談などは話題にしやすいと思います。

Q5

まだもうちょっと話したいことが残っているのに別の話題に移ってしまった時、どうすればいいでしょうか。

A5

文脈を見ながら会話を進めると良いでしょう。全然違う話になってしまっている場合は、遮らない方が無難です。もしどうしても話したいことがあるのであれば、会話が途切れたタイミングを見計らって、「そういえばさっき言い忘れたんだけど、・・・」みたいな形で会話を進めると良いかもしれません。

Q6

漫画・アニメを話題にしたら、日本人はおかしなことだと感じますか？

A6

趣味の話としてなら問題ないと思います。表象文化論や死生学などで講義でも取り上げられますので、学問の対象として話題にしてもいいのではないのでしょうか。

2. 本音と建前に関する悩み

日本人には本音と建て前、また社交辞令等があり、直接的な物言いを避けることがあります。真意は個人によって異なるので、相手の本音を気にするよりも、仲良くなりたい相手にはこちらから積極的な行動をとるということをお勧めします。

Q1

日本人は「また今度（行こう）」と言っても、実際はその後行かないことが多いと思います。どうとらえるべきでしょうか？

A1-1

自分が行きたい（会いたい）場合は、自分から連絡して誘いましょう。

A1-2

自分がそれほど乗り気でない場合は、ただのあいさつとして流しましょう。「また今度」という表現は、日本人の中では挨拶代わりとして使われることも多いので、好意として受け止めると良いでしょう。

Q2

発表などに対する改善点等を、留学生自身に直接言ってもらえません。ですが、他の人と裏で話しているようで、気になります。

A2-1

その人の意見が重要であると思うようでしたら、直接、「発表どうでしたか？」等聞いてコメントを促すと良いでしょう。場合によってはお酒を交えた席で聞くと本音が聞けるかもしれません。

A2-2

その人の意見がそれほど重要でないと思うようでしたら、裏で話していても気にしないことが大事だと思います。先生など、他の重要な人にコメントをもらうことを考えましょう。

Q3

授業後、親しくない日本人に「ご飯を食べに行く？」と声をかけられました。

A3-1

乗り気でないようでしたら、「忙しいから、また今度」などと「理由+また今度」のフレーズで断ると良いかもしれません。

A3-2

乗り気であるようでしたら、行ってみると良いと思います。

A3-3

行きたいけど、都合が悪いのであれば、「また今度」と言いつつ別の日程を提示すると良いでしょう。

Q4

連絡先を交換したのに、一度も連絡がありません。

A4-1

連絡をとりたい相手であれば、昼食などに誘うことで、連絡をとりましょう。また、共通点や趣味の話題を持ち出して連絡をとるのも良いと思います。できれば、連絡先を交換した日のうちに「今日はありがとう」などとあいさつの連絡をいれておくと、後日互いに連絡をとりやすくなります。

A4-2

もし連絡がなくても、忙しいのだろうと考えて気にしない方が良いでしょう。

3. 交流不足の悩み

大学院では研究などで忙しく、友人を作る暇もなかなかないかもしれませんが、研究室で生活をしていく上で最低限コミュニケーションを行うことは非常に重要と言えるでしょう。日本人は特にシャイな人が多いので、積極的に質問したりすると良いでしょう。また、飲み会や食事会などで「スイッチが入り」多弁になったので、仲良くなったという例も見受けられます。コミュニケーションの円滑化のためには、他の人との共通点を探してみると良いでしょう。

Q1

日本人の名前をなかなか覚えられず、改めて聞くのも恥ずかしいです。

A1

日本人も日本人の名前を覚えていないこともあるので、もう一度聞いても失礼ではないと思います。「すいませんが、なんてお名前でしたっけ？」のように聞くと良いでしょう。

Q2

共通室（学生室）で勉強している時知り合いを見かけ、向こうも私に気づいたようですが、挨拶してくる気はなさそうです。こちらからどう声をかけたらよいのでしょうか？それとも、そもそも声をかけるべきではないのでしょうか？

A2

話をしたいのであれば、自分から話しかけてみると良いと思います。人によって性格も違うので、話せる人を見つけると良いでしょう。

Q3

留学生に目を合わせなかったり、コミュニケーションしなかったり、情報共有もしてくれず、興味がなさそうです。日本人同士で会話をしながら、留学生を観察しているようにも見えます。

A3-1

興味がないわけではなく、日本人も恥ずかしがっているのだと思います。

A3-2

そのような状況に直面していて不快であれば、研究室の先生（指導教員）にアドバイスをもらったり、サポートしてもらったりしましょう。

A3-3

日本人がコミュニケーションを取れるかどうかを不安に感じている可能性もありますので、留学生のみなさんの日本語のレベルアップによって解決するかもしれません。

Q4

相手の連絡先を聞くタイミングがわかりません。また、交換した場合はその後どうしたら良いでしょうか？

A4

先に名刺を作っておいて、自分から渡すようにすると良いかもしれません。相手が大切な人の場合は、名刺などで連絡先を教えてもらったなら、お礼のメールを送ると良いと思います。

Q4

先生や研究者との会話がうまくいきません。どうすれば仲良くできるのでしょうか？

A4-1

例えば自分の失敗談などを話して、場を和ませるのはいかがでしょうか。

A4-2

お土産を贈ると好印象ですし、会話のネタにもなるかもしれません（先生に限らず、研究室の学生にも安いものでいいから持って行くと良いかもしれません。）

4. 飲み会・食事会への参加やその場でのふるまいに関する悩み

飲み会は日本人の本音が聞ける絶好の機会です。進んで参加することをお勧めします。お酒が飲めない場合でも、お茶等のノンアルコールの飲み物で大丈夫です。普段、疑問に思っているけれど、聞けないことは、こうした場を活用しましょう。

Q1

人と話すことが苦手なので、飲み会などには行かなくて済む方法はないでしょうか・・・」

A1

必ずしもすべての飲み会に参加する必要はないと思いますが、研究室のフォーマルな会（歓迎会、忘年会、送別会など）は交流の場なので、参加した方がよいと思います。日本語を勉強するチャンスと思って参加してみたいはいかがですか？

Q2

お酒を飲まない人は、飲み会に行かなければならないとき、参加しなくてもいいですか、それとも参加した方がいいですか？もし参加したときは、お酒を飲まなくても大丈夫ですか？

A2

お酒は飲まなくても問題ありません！

Q3

飲み会で早く帰りたいとき、どうしたらいいですか？

A3

早く帰宅したい時は、あらかじめ幹事にその旨を伝えて、早めの退出を申し出るとよいでしょう。なお、飲み会の時間は 2-3 時間程度が標準です。二次会への参加は各人の自由です。

Q4

研究生ですが、院生と一緒に行動して研究室旅行や飲み会に参加しても大丈夫ですか？

A4

研究生も研究室のメンバーですので、参加可能です。

Q5

他の人がしている話が、自分に向けられているのかそうでないのか、判断が付きません・・・

A5

直接訊かれたら、反応すればいいと思います。またどうしても気になるときは、遠慮なく質問することをお勧めします。

Q6

日本人同士のグループと一緒に昼食を食べに行っても大丈夫ですか？

A6

大丈夫です。自分から声をかけてもよいでしょう。また、わからないことは質問しましょう。

Q7

日本人の言うことが聞き取れなくて、聞き返せなくて、そのままにしてしまいます・・・

A7

自分も日本人も不安が解消されるので、わからない時は質問しましょう。

5. 年齢や立場の違いから生じる悩み

先生や先輩が自分より年下の時は、どのように接したらよいでしょうか。これは、研究室のカルチャーや個人の性格によってもおそらく対応が変わってくる内容です。丁寧語や敬語を用いて、誠意を持って接することが大切です。疑問に思う場合は、相手や周囲の人と相談して対応を考えることで、今後の円滑なコミュニケーションにつながると考えます。

Q1

意見の違いや間違い等を指摘したり、反論したりするとき、無難な方法がわかりません。

A1

まず褒めると良いかもしれません。その上で、反論や指摘などを、「教えてほしいのですが」のように疑問を含める形で話すと相手は不快に思いづらと思います。

Q2

立場を決める方法がよくわかりません。先輩・後輩の設定基準を教えてください。

- ・入学年で決まるのでしょうか？
- ・留学や休学していて後輩になった先輩はどういう扱いになるのでしょうか？

A2

研究室や個人によってカルチャーは違いますので、相手に「自分（留学生）の立場・背景など」を説明し、相手との関係性を相手と一緒に考えてみて下さい。コミュニケーションの取り方をどうしたらいいか（敬語か、ため口か）もそのとき話せると良いでしょう。

Q3

立場による敬語の使い分けがわかりません。

- ・同じ年、あるいは年下でも、先輩へは敬語を使うべきでしょうか？
- ・年下の指導教員に対しては敬語を使うべきでしょうか？

A3

とりあえず敬語を使っておくと、一番間違いが少ないと思います。それを踏まえた上で、相手の出方（敬語か、ため口か）によって判断してみると良いでしょう。同級生で相手がため口の場合、ため口を使ってみて反応をうかがってみてください。不安であれば、Q2と同じように自分の立場を説明し、敬語なのかため口でいいのかを確認すると良いでしょう。

6. その他の悩み

その他、上記の5項目に収まりきらなかった事例をご紹介します。

Q1

話をしている、興奮してくると、相手の身体を触ってしまいます（自分の出身国では当たり前の行動）。日本人は、これをどう感じるのでしょうか？

A1

触らない方が無難でしょう。日本の文化では、ボディタッチはあまりしません。ただし、仲が良くなった（親しくなった）ら日本人のほうが留学生のボディタッチに慣れてくれた、という事例もあるようです。

Q2

（風邪でマスクをしていたが）講義室で咳き込んだら、隣の人が怖い顔をしてにらみつけてきて、授業中なのに席から遠ざかっていってしまいました...

A2

日本人は衛生面を気にする人が多いです。風邪のときは極力マスクをしましょう。神経質な人は、どこの国にも一定数いますので、あまり気にしないほうが良いでしょう。

【おわりに】

東京大学フューチャーファカルティプログラムと日本語教室との共催により、留学生・外国人研究員向けの集中講座「何気ない日本人の習慣・考え方を学ぼう！」が、2017年3月下旬に開催されました。本講座の運営は、東京大学フューチャーファカルティプログラム（東大FFP）の修了生が中心となって行いました。この講座の数か月前から、東大FFP修了生が本講座のデザインとコンテンツ作成を行いました。講座の序盤では、留学生が行動に困ると思われる「場面」をイメージしやすいように、「ロールプレイ」を演じました。

本資料はその成果を、東大FFP修了生がまとめたものです。本講座の内容を活用いただくことによって、他の考えられる回答をさらに蓄積し、今後はさらにバージョンアップを図ることができれば幸いです。相互の習慣や考え方の違いを認識することによって、留学生の皆さんがさらに充実した研究生活が過ごせることを強く願っています。

お問い合わせ先： 東京大学フューチャーファカルティプログラム <http://www.utokyofd.com/contact/>